

特集「海外市場への関心：中国事情とACHEMA」を企画して

特集担当編集委員 伊ヶ崎 文和、森田 章友

国内消費が伸び悩む中、海外事業に力を入れている、あるいは新たに海外に進出していきたく考えている企業は多いのではないだろうか。日本粉体工業技術協会の海外活動ワーキンググループが会員企業に行ったアンケート調査でもそのような結果が得られている。粉体関連企業の中でも既に多くが海外市場への進出を果たしているが、その反面進出したいが、さまざまなリスクを考えるとなかなか実行に移せない企業も多いと思われる。アンケート結果では特に中国に対する関心が高かったことから、本特集は中国市場への進出を考えている企業の参考になればと企画した。

また海外の動向として協会会員企業も多く出展する欧州最大の工業展 ACHEMA への参加レポートを紹介する。粉体に関する国際的な工業展は ACHEMA の他に中国と米国で開催されるが、開催時期や視察団の有無などの理由により今回は ACHEMA のみとさせていただいた。

特集記事ではないが、米国の情報を「海外市場情報」としてトリプルエーマシン(株)の石戸 克典氏に執筆していただき隔月に連載している。本特集記事とあわせてそちらもご覧いただきたい。

日本貿易振興機構（ジェトロ）の真家 陽一氏には、「市場としての中国の経済動向と日本企業の課題」と題して、俯瞰的に見た中国経済の状況と日中の経済関係について説明をしていただいた。また、ジェトロが行ったアンケートをもとに、企業が中国ビジネスで実際に直面している問題点の紹介とともに、中国でビジネスを行う際のポイントについて提言していただいた。中国への進出を考えている中小企業の方には参考になると思われる。

株モリモト医薬の盛本 修司氏には、「中国の医薬品・製剤研究事情からの課題とアプローチ」と題して、中国の医薬品業界を詳細に解説していただくとともに、医薬品企業の立場からみた中国との取り組み方を説明していただいた。

ドイツのフランクフルトで開催された ACHEMA2012への参加レポートを次の5名の方に技術分野別に執筆していただいた。

「粉体技術」編集委員会 委員長の大矢 仁史先生には、ACHEMA の規模や出展数などを過去からの推移も含めて全般の状況を説明していただいた。また、展示ブースではリサイクル技術として廃棄物、廃水、排ガスの処理そしてエネルギー関連に関して紹介していただいた。

岡山大学大学院の小野 努先生には、分散装置について紹介をいただいた。特に実用スケールやインラインの装置を取り上げて解説をしていただいた。

株奈良機械製作所の岩本 大輔氏には、乾燥装置について紹介をいただいた。乾燥装置を通して日本とヨーロッパの装置設計に対する考え方についてもご自身の経験をもとに解説をしていただいた。

岡山大学大学院の後藤 邦彰先生には、粒子径計測装置について紹介をいただいた。画像解析法の装置を中心に説明していただいた他に、学生が開発品のデモを行っている大学ブースの様子なども紹介していただいた。

同志社大学の白川 善幸先生には、晶析技術について紹介をいただいた。併せて ACHEMA の行事の一部である International Powder and Nanotechnology Forum 2012 (IPNF2012) の様子についても紹介をいただいた。

最後に日本粉体工業技術協会の海外活動ワーキンググループの鹿毛 浩之先生には、協会会員企業に行ったアンケート結果について「海外活動に関するアンケートの集計結果から見えるもの」と題して解説していただいた。海外事業に対する関心の高さがわかるとともに中国をはじめとしたアジア進出への意気込みを強く感じる結果である。

本特集号は海外市場として中国を中心に考えて構成した。日本の GDP を抜き、さらに大きな成長を続けている中国市場への進出は大きな可能性があるとともにリスクも伴う。さまざまな情報を集めて準備することでリスクは減らすことができる。海外進出を考えている企業にとって、本特集の情報が少しでも役に立てば幸いである。